

地域の行事や身近な話題、生活情報などホットなニュースがあればお寄せください。まちのカメラ君が、早速伺わせていただきます。



防災に向け気持ちも新たに 「消防出初式」に1,000人が参加

「篠山市消防出初式」が1月9日、篠山市民グラウンドで行われ、市内の21分団の団員ら約1,000人が参加しました。寒空のもと、団員たちはりりしい制服姿で行進(写真)を行い、防災に向け気持ちも新たにしていました。式では、瀬戸市長の式辞や篠山市消防団・小前芳彦団長による訓辞の後、長年にわたり地域の防災活動に尽力された団員への表彰式が行われました。また、演習では、篠山城跡の石垣を使った高所からの救出訓練があり、市消防本部職員が機敏な動きを披露。さらに、一斉放水も行われ、タンク車や機械で壕の水を吸い上げながら、城跡の方向に勢いよく噴射、上空には見事な水のアーチが描かれていました。

伝統的な遊びでお正月を楽しむ ちるみゅーでワークショップ

篠山チルドレンズミュージアムで1月2日・3日の両日、ワークショップ「お正月あそび」が行われました。これは、羽根突きやこま回し、かるたとり、たこ揚げなど、昔からの伝統的な「お正月あそび」を楽しむと企画したもので、市内の子どもたちはもちろん、遠方からは福知山市から参加した親子連れの姿も見受けられました。子どもたちは保護者やスタッフと一緒に、それぞれの遊びを堪能。かるたとりをする子どもたちは、読み手の声に集中しながら、楽しそうにかかるたに見入っていました(写真)。また、はじめてこまを触る子どもたちも、保護者から遊び方を教わり、こま回しを体験。やがては、全員でこま回し大会を行うなど、参加者たちはちるみゅーでのお正月休みを満喫していました。

勇壮な太鼓の響きで500人を魅了 丹波篠山太鼓「鼓篠組」12月公演

今年2回目となる丹波篠山太鼓「鼓篠組」のコンサートが12月26日、たんば田園交響ホールで行われました。「鼓篠組」は平成2年12月に発足し、1年半後の平成4年6月、篠山町役場(当時)新庁舎竣工式典でデビュー。以来、中国や姉妹都市・米ワシントン州ワラワラ市での海外公演のほか、年間約20回の公演活動が続けてきました。今年の公演第1弾は、3月28日に四季の森生涯学習センター多目的ホールで行われた「元気が出るコンサート」。そして、第2弾が今回の12月公演で、さらにグレードアップした公演を観衆に届けたいと、メンバーが一丸となって取り組んできました。まずは、オリジナル曲「山ふところ」で開幕。友情出演の「和知太鼓保存会」(京都府和知町)とのジョイントも織り交ぜながら、力強く、勇壮な太鼓の響きで、会場に詰めかけた約500人の観衆を魅了していました。



利用者とともにお正月を祝う ぬくもりの郷で鏡割り

こんだ薬師温泉ぬくもりの郷で1月1日、お正月を祝う鏡割りが行われました。セレモニーでは、黒田庄町から来られた辻本芳定さんと大上恭平社長、後藤幹史取締役(写真右)によって元気よく鏡が割られると、見物していた利用者からは大きな拍手があがっていました。大上社長は「昨年は、41万5千人もの方にご利用いただきました。今年は宴会場も整備できたので、より多くの皆さんにご利用いただけるよう、スタッフ一同がんばりたい」と笑顔で話されていました。



歴史を生かしたまちづくりを考える

国重要伝統的建造物群保存地区選定記念講演会

篠山城跡と城下町の約40.2ヘクタールが、国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されたのを受けて12月26日、篠山市民センターで記念講演会が行われました。はじめに、河合隼雄文化庁長官が、中山成彬文部科学大臣の選定書を瀬戸市長に伝達。続いて、河合長官、小林一三さん(篠山まちなみ保存会長)などが、伝建制度を活用したまちづくりについて講演を行いました。約300人の参加者たちは、30年以上前に始まった保存活動を振り返り、歴史を生かしたまちづくりの大切さを感じていました。



◀「文化力による元気なまちづくり」と題して講演される河合長官。全国のさまざまな取り組みを紹介されました

▶河合長官から瀬戸市長に選定書が手渡されました。「自分の出身地に交付できたことは、何よりの喜び」と笑顔で話されていました

